

目黒稲門会会報



(題字：眞仁田 勉 初代会長)

第35号 2007年6月

発行人：加藤 栄護 編集長：外岡 明 事務局長：吉田 博行
事務局：〒153-0053 目黒区五本木2-47-5 Tel 03-3713-2096

2007 年度定時総会開催のご案内

第8回目黒稲門会定時総会を7月8日(日)下記の通り開催します。

総会では、前年度の事業報告、決算及び監査報告、役員の改選と新役員の選出、平成19年度事業計画と予算案等重要事項の審議が予定されております。

総会に続いて恒例の懇親会が行われます。懇親会は回を重ねるごとに盛り上がり親睦の輪が広がっております。会員並びにご家族の皆様の積極的なご参加をお願い致します。特に年会費をご負担されながらこれまで何れの会合にもご出席されなかった会員の皆様には、出席者の方々やその和やかな雰囲気に触れられる良い機会であり、是非ともご参加下さいますようお願いしております。

毎回初参加の方々が数人おられますが、直ぐに打解けられ、その後本会報末尾掲載の各部会にも参加されて充実したリタイアメント・ライフが楽しめると思っております。

なお、今回は懇親会に3回目の登場となるお馴染みのジャズバンド“デキシーフレンズ”の出演を予定しております。軽快なジャズ演奏をバックに美味しい酒を酌み交えることと思います。

記

日時 2007年7月8日(日)

受付開始 15時30分

総会・懇親会 16時～19時

会場 こまばエミナース

目黒区大橋2-19-5

電話 03-3485-1411(代)

交通 井の頭線 駒場東大前駅

(下北沢寄り改札口 徒歩7分)

会費 8,000円(同伴家族5,000円)

当日会場受付にてお支払いください。当日キャンセルの方は会費をご負担願います。

送迎 こまばエミナースのマイクロバスを運行し

ますのでご利用ください。

①目黒駅付近 15時10分発

(目黒通り・みずほ銀行前付近)

②中目黒駅付近 15時20分発

(山手通り・ツタヤ前付近)

*同封の返信用葉書を6月15日までにご返送下さい。なお、送迎バスご利用の方は利用番号(①又は②)を明記して下さい。

(島田 記)

校友会だより

東京都23区支部大会 盛大に開催！！

平成19年3月5日、リーガロイヤルホテル東京に於いて、23区稲門会より250名の参加で夕刻6時より講演会・懇親会が開催されました。

第一部講演会は「日本政治展望・激動の世界でどう生きるか」の講演で、早稲田大学大学院教授・日経新聞客員コラムニストの田勢康弘氏による講演が行われました。これから主要国首脳の交代の時期となるが、日本はそれにどう対処していくかの大事な時であるという興味深いお話しをお聞きしました。

第二部は懇親会で23区支部長の開会の辞に始まり、大学関係近県支部来賓の方々の紹介の後、白井総長よりご挨拶を頂きました。125周年募金の協力、1月の箱根駅伝の躍進、野球の斉藤佑樹君と卓球の福原愛ちゃんの話で受験生が12万5千人となったこと、そして今後の活躍の期待のお話しを伺いました。

その後23区支部より総長へ、125周年記念募金に125万円を贈呈し、瀬下校友会代表幹事の乾杯の音頭で開宴となりました。早稲田大学交響楽団の弦楽五重奏の演奏が流れる中で、和気あいあいと各区稲門会の交流も進み、応援部OB指揮による「都の西北」の大斉唱が会場に響きました。

23区担当幹事 大竹 一子

新入会員



中島 侑三氏（平町）
昭和31年 政経 趣味：油絵 旅行
麻雀 囲碁
晩節を楽しく。油絵で世界遺産を描く。



渋谷 多喜夫氏（中根）
昭和33年 理工 趣味：パソコン
旅行 クラシック鑑賞
高齢者にパソコンの手解きをしています。



大久保 健治氏（目黒本町）
昭和37年 理工 趣味：囲碁（六段）
芸術 映画 落語 カラオケ
お付き合いの輪を広げたい思いで一杯。



梶 恵作氏（目黒本町）
昭和37年 政経 趣味：パソコン
俳句 ハーモニカ
お仲間に加えて戴く事になりました。



吉田 成孝氏（下目黒）
昭和37年 政経
目黒に稲門会があるのを知らず、随分
年老っての入会ですが宜しく。



峠 隆氏（洗足）
昭和42年 理工 趣味：盆栽 ゴルフ
ひょんなところから稲門会の皆様方と
知り合い、入会となりました。



早川 光磨氏（中目黒）
昭和44年 政経 趣味：ゴルフ
早稲田を愛する気持ちは誰にも負けない
つもりです。楽しい出会いを期待して
います。



国場 覚氏（柿の木坂）
昭和43年 商 趣味：ゴルフ ドライブ
61歳になり、地域の校友と楽しいお付
き合いをしたいと思います。

山木 宏之氏（碑文谷）
昭和38年 商
この度 入会しました。宜しくお願いし
ます。

特別寄稿

思い出すことなど

〔1〕 フランス語との出会い、イタリアへの留学

〔2〕 母校 早稲田大学との関わり

水野 弘文（昭28年 理工）

〔1〕 昭和24年4月に早稲田大学理工学部数学科に入学した。国立大学に入り損なった私に対して、父は、私立大学では外国語の教育が十分でないから、将来研究者になるのは無理であるというようなことを口にしていて。第二外国語はドイツ語を選択していたが、ついでにフランス語も勉強してみようという気を起こした。その頃、理工学部の建物は西早稲田にあり、文学部もまた同じキャンパスの中にあつたので、しばしば専門の数学の授業をさぼって、文学部に出かけて行き、ドイツ語やフランス語の講義に出席した。新庄嘉章先生のテキストは、アンドレ・ジイドの「狭き門」で、立て板に水のごとき名訳を聞くことができた。佐藤輝夫先生はわが国における中世フランス文学の第一人者で、その頃文学部長だったかと思うが、講義では象徴派の詩を教わった。

ミュッセ、ボードレール、マラルメ、ゴーチエ、ヴェルレーヌなどなど。学期末になって理工学部の試験の時間割をみると、ドイツ語とフランス語は同一時間になっていた。仕方がないので、20分でフランス語の答案を提出し、急いでドイツ語の試験も受けて、両方とも単位をもらった。

2年生の夏休みの頃から、アテネ・フランセにも通い始めた。ここでは、フランス語のコースの外にギリシャ語とラテン語のどちらか、または両方の講義に出席し、初等科の試験に合格し、引き続き中等科以上のコースに進み、真面目に勉強すれば、授業料はすべて免除されるという制度があった。私はこの特典を利用させてもらって、3年間かけて、殆ど無料でフランス語の高等科を卒業することができた。

さて、佐藤輝夫先生は早稲田大学退職後明星大学に招かれて、教育と研究に専念され、著書「ローランの歌と平家物語」に対して学士院賞が与えられている。そして、日野キャンパスの人文学部、同大学院で教鞭をとられ、16年間にわたって明星大学の発展のために尽力された。その後青梅に新しいキャンパスができ、情報学部と日本文化学部が新設されたが、日本文化学部の基本構想は佐藤輝夫先生の提案によるものと伺っている。

平成10年に私は縁があつてこの明星大学情報学部と同大学院で教えることになった。佐藤輝夫先生はすでに亡くなつていて再会することはできなかつ

たけれども、佐藤先生の一番弟子で、現在明星大学名誉教授である佐佐木茂美さんと知り合った。彼女は毎年専門分野である中世フランス文学の国際会議で研究発表を続けており、日本でよりも海外で高く評価されている。明星大学創立40周年にあたる2004年には、明星大学において国際シンポジウムが開催され、フランスでの彼女の同僚の一人であるフィリップ・メナール氏（ソルボンヌ大学名誉教授、同大学院委員長）も招かれていて、私も彼の講演「マルコ・ポーロ「東方見聞録」のなかの日本のイメージ」などを聴くことができた。因みに、私の家内と佐佐木茂美さんとは、半世紀も昔、アテネ・フランセに通っていた頃、ラテン語のクラスで一緒だったようである。

数学科を卒業した昭和28年の時点で、まだ数学科の大学院は設置されていなかった。そこで仕方なく東京大学の数学科大学院に進学することにした。代数幾何学という分野を勉強しているうちに、イタリア学派の代数幾何学、特にフランチェスコ・セヴェリ達の業績が重要であるということに気がついた。大学院を出たあと、明治大学工学部で数学を教えていたが、1960年にイタリア政府の給費留学生としてローマ大学国立高等数学研究所に行くことになった。セヴェリはすでに高齢で、弟子のベニアミノ・セグレ教授の下で研究を行った。

ペルージャはローマとフィレンツェの間にある古い街で、「外国人のための大学」がある。夏休みには、ローマ大学は休みになるので、ペルージャ大学に行き、イタリア語だけでなく、ローマの歴史、イタリアの美術などの講義も聴いた。週末には美術史の先生が引率してバスに乗ってオルヴィエート、ウルピノなどの古い街、そこにある教会や美術館などを案内してくれた。

2年間の留学のあと船で帰ることになった。その頃は飛行機よりも船のほうが安かったのだろう。ベニスから貨客船で出るようになっていた。ローマからベニスに行く途中、ラベンナで途中下車して、いくつかの古い教会のモザイクを見物したりして、ベニスについてみると、港湾ストライキで船の出航は一週間ぐらい遅れた。その間にベニスもゆっくり見学できた。船は40日位かかって横浜に着いた。

[2] 早稲田大学 理工学部 工業経営学科では、1980年頃から、世の中の情報化を予見しつつ、学科の体質改善と現代化の方法を模索しつつあったように思われる。平澤茂一氏は私と同じ数学科の出身であるが、既に情報理論、特に誤り訂正符号の分野において優れた業績を発表しておられ、国際的にも高く評

価されていた。工業経営学科は当時三菱電機に所属していた彼を母校の教授として迎え入れ、学科の将来計画や教育内容の改革などを開始したように思われる。

数学の分野では、微分方程式、複素関数論などの古典的数学を必修科目からはずし、その代わりに、情報通信の分野で必要不可欠な新しい数学を必修科目にした。新カリキュラムは教授会で承認され、翌年4月から早速新しい方式で教育が行われることになった。その講義の担当者が学科の中にも理工学部の中にも見つからなかったせいか、急遽私のところにしかるべき適任者を推薦して欲しいという依頼が来た。しかし私にも、4月から担当してもらえそうな人の心当たりもなく、もし差しつかえなければとりあえず私が引き受けることにしましょうということになった。そして、必修科目である「基礎情報数理」を非常勤の私が担当することになった。

また、後には、その他に「グラフ理論」や大学院の特別講義なども担当させて頂いた。

1990年頃に、情報数理関係のテキストのシリーズものを出版する計画が生まれ、私もその中の一冊を分担することになった。そこで、それまで毎年行ってきた講義「基礎情報数理」の内容をまとめて一冊の教科書をかいた。それが、「情報数理の基礎」(培風館)情報数理シリーズA-1(1996)である。

さて、目黒稲門会の現会長 加藤栄護さんとは昔からの知り合いである。彼は私と同じ理工学部数学科の出身であり、私が電気通信大学で就職委員などをしていた頃には、多数の学生を彼が部長をしていた富士通に採用してもらった。



(続) 新入会員紹介



笠谷興一朗氏(横浜市)

平成18年 文 趣味:プロレス観戦
グルメ書(四段)油絵

諸先輩方の積み重ねてこられた早稲田の系譜を継ぐ者の一人として精進してゆきたいとおもいます。

会員の広場

美術・歴史鑑賞部会の 「オルセー美術館展」に参加して

小野 陽子

(昭41年商 小野満氏夫人)

濃い紫色の帽子と同色の服に身を包んだ、大きな瞳とふっくらとした唇が印象的な「すみれのブーケをつけたベルト・モリゾ」。今回の美術館展の印象派コレクションの代表作としてチケットにもあるその愛くるしい顔は何か物言いたげな様子を伺わせませす。モリゾの師、エドゥアール・マネの描いた絵ですが、モリゾは自分を生涯絵かきとして描かなかった師にどんな思いを抱いたのでしょうか。でも彼女は画家特有の激しい気性とはかけはなれた穏やかな性質をもっていたのではないのでしょうか。モリゾは、「ゆりかご」に彼女の姉とその娘を描いていますが、ウェディングヴェールを思わせるその白いやわらかなレースにも、画家を断念し結婚した姉への優しさや祝福が込められている思いがいたします。

今回は早大学術院助教授、坂上桂子氏の「画家たちの交流をめぐって」の講演もあり、有名な画家たちも日常あるいは若かりしころ一人きりではなく、その集まりの中で各々の個性豊かな作品を描いていたという話も印象的でした。あの孤独の画家といわれる巨匠ゴッホでさえも「アルルのゴッホの寝室」ではゴーギャンと共に暮らす喜びで、二つの椅子や自分たちの自画像を黄色い部屋に描いているのですから。そのゴーギャンはゴッホや妻子、社会的環境を全て振り切ってタヒチへ向かうのですが、その直前に描いたという「黄色いキリストのある自画像」には安らかな顔立ちのキリストと、対照的な厳しい自分の顔とが描かれています。神に全てを委ね、自分のその後の途を生きる強い意志の表現なのでしょうか。

画家の心境は計り知れないけれども、一枚の絵の中に自分の人生の内面を深く探った画家たちの苦しみや喜びを見いだすということを今更ながら思い知らされました。そして描かれた作品を観て、私たちもまたその時々的心境において画家たちと一致する思いを抱いた作品に巡り会えたらと思うのです。

いつもタイムリーに美術鑑賞や歴史探索を計画してくださる部会長の八幡様に紙面をお借り致しまして御礼申し上げます。

ワセオケの今昔

林田 雅敏 (昭和31年商)

今年の3月5日(月)に、東京23区支部稲門会総会が、リーガロイヤルホテルで開催された。

その第2部の懇親会で白井総長から今年の早稲田は、箱根駅伝での来年度出場権の獲得や野球の斎藤佑樹君、卓球の福原愛さんの入学の話題と今後の活躍で大学の知名度は益々上がったという話があった。

その後宴会に移ったのだが、バックミュージックに早稲田大学交響楽団(以下ワセオケ)のピックアップメンバーが弦楽五重奏でモーツァルトの音楽を演奏した。よく合ってきれいな音がしている。大きな部屋で豪華なシャンデリアの光る下は絨緞のため響きが悪いのが気の毒だ。2曲目の時ヴァイオリンの1stと2ndが入れ替わったが音のきれいさは変わらない、弦の持駒が豊富なのだ。

先程の総長の話のスポーツ以外に、音楽でもワセオケの活躍は、楽器を演奏する人にとっては憧れの的だ。今は早稲田大学だけでも、こういうアンサンブルが40~50もあると、ある楽器屋さんで聞いたことがある。私の頃はいくつも無かった。

ワセオケは昭和53年にカラヤンコンクールで優勝した。その後も、メンバーは4年間の学生生活で卒業して、新しいメンバーが入れ替わり入ってくるが年々質は向上しており、どんどん難しい曲がレパートリーとして広がっている。

私は昭和26年入学と同時に入部。高校生時代から青年交響楽団というアマチュアオーケストラに入っていたが、そこにワセオケの大先輩で後に指揮者となった有名な山岡重信さんがおり、早稲田に入ったら是非ワセオケへ入れと言われたので入部した。

入学した時の春の演奏会が敗戦後初めての定期演奏会で、部員が少なくOBの力を借りないと50人以上の編成にならなかった。しかもコンサートマスターはOBで、2ndヴァイオリンはオーケストラ本体に破綻がないようにとプロのOB、私はその2ndトップの裏を弾いた覚えがある。指揮は小船幸次郎さんで、独奏ヴァイオリンが植野豊子(服部)さん。曲はシューベルトの未完成交響曲、ベートヴェンのヴァイオリン協奏曲、あと序曲を一曲というプログラム、先ずは無難な曲を選んだ。

今のワセオケは部員270名。リヒアルト・シュトラウスのドンファンをこの前、早稲田祭で聴いたが、その他ストラヴィンスキーの春の祭典や日本の難しい現代音楽などをレパートリーにしている。往時、家庭の事情で学費稼ぎのためダンスホールやキャバレーでのバンドのアルバイトのため、ワセオケにはあまり行けなくなったのが残念だった。

「若き日の思い出」

伊藤 源喜（昭和29年 理工）

(1) 学生時代

私は昭和25年に第二理工学部電気工学科に入学、昼は溜池にあった電気試験所の技術員として勤務、夕方になると都電で早稲田まで、14号館の教室に通学しました。思い出に残っている教科は教養課程のみ。論理学の榎山欽四郎先生は、有名な連続ドラマ「おはなはん」の主演女優、榎山文枝さんの父君でした。「三段論法」の、かたぐるしい講義と「おはなはん」の演技との対比は、面白いものですね。心理学の本明教授の講義は学問自体が面白いので興味深く講義を受けました。法学は教授名は忘れましたが法律ほど定かでない学問はない。特に「国際法」はいい加減と教えられました。昭和20年代後半の荒れた時代の所為かもしれません。表現が適切でない所はご了承ください。

(2) ソニーについて

ソニーの発生地は昭和21年、現在の東五反田2丁目に東京通信工業として発足と知られていますが、その工場前にバラック住宅の我が家がありました。そして現在の本社は戦争中分譲住宅地の原っぱ（御殿山）で小学生の頃は絶好の遊び場、秋になると多数の鬼ヤンマ・銀ヤンマが飛来し、面白い程とれました。ちなみに捕獲する道具は空気銃の玉を赤い布で巻いた物を2つ作り、タコ糸で両端に結ぶ。それをヤンマの飛来先に空高く投げると絡まって落ちる訳です。又本社前に私の学びし小学校がありますが、ソニーからテープレコーダー、磁気テープの寄贈を受けて授業に大いに役立った、と後に聞きました。

(3) 目黒稲門会部会

私は現在囲碁部会を芯にやっております。初期の頃の旅行部会の思い出は、第1回目の鎌倉旅行でした。

当時の大竹部会長の引率、OBの佐藤先生の講義つきツアーで一日有意義に過ごしました。北條一族の最後の自決地の暗い山の斜面に立った時は、人の哀れと時代の厳しさを感じました。又白馬岳への日帰りバス旅行では、八方尾根をケーブルで頂上まで登りました。ここはケーブルのない昭和30年代初期、電気工学科友人三人と森上駅よりスキーをかついで行進、八方尾根はシールをつけて登る、一日かけて白馬岳そばの銀世界の湖上へ着きました。更に蓮華温泉へとスキーツアーを続けました。

美術・歴史鑑賞部会

3月10日（土）39名の参加者は上野の杜で開催中のオルセー美術館展を鑑賞しました。

印象派の名品が数多く展示され、その素晴らしさを堪能しましたが、引き続き聴講した坂上桂子氏（早稲田大学助教授）の講演がまた圧巻でした。

講演は「モリゾとマネ、その他画家たちの交流をめぐる」というタイトルでした。モリゾとはマネに師事した閨秀画家で、マネの名作「すみれのブーケをつけたベルト・モリゾ」のモデルにもなった知性あふれる美人です。講演からは、印象派の画家の交友は深く、互いに啓発し合っていた状況がよく理解できました。ルネッサンス時の画家たちが、優れた芸術性を個人として育んだのに対し、印象派の評価が市民社会の成長とともに高まったのは、この辺に鍵があるのでしょうか。

1時間30分の学習。「学ぶを楽しむ」私たちを早稲田の学生時代に戻し、春の日の午後を一段と盛り上げてくれました。



部会長 八幡 和三郎

カラオケ部会

水温み心も浮き立つ春を迎え 3月9日（金）18年度最後のカラオケをと、早くより会場であるコートダジュールに14名の参加を得て、乾杯の音頭に始まる。酒に歌に盛り上がり、3時間の熱唱40曲、19年度へ順調に繋ぐことができました。有難う。

次回から、益々元気で参加熱唱下さい。

平成18年度参加者 12ヶ月平均 13.8名（最大17名 最小11名）と昨年度平均1.6名増 順調な進み。

6月8日（金）・7月13日（金）お盆の入りにて迎え火はお出掛け前に済まして下さい。8月10日（金）19年度も原則 第2金曜日16時～19時迄開催

部会長 海口 昭治

グルメ部会

～東京タワーの真下で和食を楽しむ～

2月11日春の訪れを感じるうららかな日曜日の昼、港区芝東京タワーの真下に開店した、話題の「芝とうふ屋うかい」でグルメ会が行われました。人気のお店なので、お席が20席しか予約できませんでしたが、加藤会長はじめ、総勢20名は、見事なお豆腐のお料理に舌鼓みを打ち、美酒に酔いしました。

とりりとして薫り高い「胡麻豆腐」、バラエティに富んだ「八寸盛り合わせ」、この店自慢のかりっと焼いた「揚げ揚楽」、「御作り」、「聖護院大根の蟹餡かけ」、豆乳の中に浮いた「豆水とうふ」、「芝の鶏飯」、そしてデザート「柚子葛湯」を頂き、皆満足顔。楽しく語らいながら食事をした後は、江戸情緒のある店館内、そして見事な庭を散策しました。



部会長 海沼 美智子

麻雀部会

(1) 定例麻雀大会

2月18日(日)武蔵小山の麻雀クラブ「サン」に於いて今年初の第29回定例麻雀大会が開催されました。和気藹々の半チャン4ゲームを制し優勝したのは郡山氏、準優勝は中村氏、三位は清水氏でした。また当日、雀荘のママからウイスキーや粗品の差し入れがあり、ラッキー7賞、原点賞、最多得点賞、ブービー賞と全員何かの(賞)品を持ち帰ることが出来ました。

(2) 今後の大会予定

次回を目黒稲門会の定例麻雀大会は6月3日(日)、また3区(渋谷・世田谷・目黒)連合親善麻雀大会は8月25日(土)を夫々予定しております。皆様奮ってご参加ください。

部会長 松尾 洋一

囲碁部会

3月29日の早稲田囲碁祭実行委員会において、第7回オール早稲田囲碁祭の開催を決定した。平成19年6月9日(土)市ヶ谷日本棋院2階大ホールにて1チーム5人の団体戦。目黒からは2チーム10人の参加を予定している。

早稲田大学校友会の平成19年度囲碁将棋行事の予定は下記の通りである。

(1) 創立125周年記念「オール早稲田囲碁フェスタ」

10月28日(日)早稲田中・高校体育館

(2) 創立125周年「早稲田対高麗大学」親善囲碁フェスタ 8月 ソウル

なお、稲穂会囲碁会(個人戦)は開催を中止

(3) 第3回オール早稲田将棋祭

11月18日(日)学生会館

今後の日程

平成19年7月2日(月)

8月 休会

9月3日(月)

場所 下目黒住区センター

時間 午後1～5時

会費 500円

部会長 保井 正

旅行部会

「新緑の小布施光寺を訪ねる旅」のお誘い

今年度旅行部会第一回目の旅行は長野県北部を訪ねることとしました。

小布施は葛飾北斎や小林一茶ゆかりの江戸文化の香り豊かな町です。「牛に引かれて善光寺参り」と「北野美術館」やNHK放映中の「山本勘助」ゆかりの地を訪ねます。

泊まりは外湯めぐりで有名な「渋温泉」を予定します。

一部屋分4名様分のみ追加で申込をお受けいたします。詳しくはお問い合わせ下さい。

1. 日時 平成19年6月10日～11日(一泊二日)
2. 行程 (一日目)目黒駅(8時)～貸し切りバスで小布施へ(見学、昼食)～渋温泉宿泊(二日目)善光寺～北野美術館～「山本勘助ゆかりの地」～目黒駅(18時頃)
3. 費用 一人 ¥35,000位 (最終日程は、人員確定後に決定します。)
4. 募集 25名以上 (貸切バス使用のため最小催行人員20名とします。)
5. 申込み&問合わせ先

Tel・Fax 03-3714-6299

部会長 井村 正陽

ウォーキング部会（鎌倉花散歩の会）

地球の温暖化は我々ウォーキング部会の目的の一つである花見の時期を変え、梅の季節は11日も繰り上げて2月16日に北鎌倉からスタートしました。4月は極楽寺から長谷―鎌倉山―腰越と鎌倉のサクラを満喫しました。

この1年余の11回で鎌倉にある主な寺社の花の見どころはほぼ一巡し、この夏からは鎌倉中心としつつ神奈川県全域の花の名所もウォーキング範囲に入れる予定です。

<今後の開催予定>

★集合は現地駅、小雨決行

第13回 6/30（土）12:20 相模線原当麻駅集合
一遍上人ゆかりの森閑たる無量光寺とハナショウブとアジサイの公園を訪ねる。

無量光寺―県立相模原公園―相模原麻溝公園
（アジサイ）（ハナショウブ2万6千株）（アジサイ5千株）

第14回 7/20（金）大船駅西口集合13時

花の美を演出するテーマパークとかつての栄華を
伝え哀愁の漂う古刹巡り。

フラワーセンター大船植物園―等覚寺―大慶寺―
東光寺―大船駅……元町中華街

★8月は休会 ★土曜日にも設定しました。

部会長 桑野 祐光

目黒・若手会

先輩方からの絶大なる応援を頂き、お陰さまで定期的に目黒・若手会が開催できるようになりました。前回1月13日（土）若手新年会は、故 鈴木ゴルフ部会長のお嬢様である鈴木尚子さんはじめ、7名のメンバーで和やかに開催。楽しい時間はあっという間に過ぎていきました。

大学で過ごす時間はわずかに4年+αですが、更に広い世代・広い世界の先輩方と共に、人生大学校ともいべき同窓生の輪に入ってみませんか？

<次回若手会のご案内>

日 時：6月2日（土）夜7時～

場 所：Terrazza「pampa」を予定

目黒駅徒歩2分・権之助坂商店街

PHONE：03-5496-0788

参加申込：担当幹事・石川（平成7年一文）まで
時間・場所変更の可能性もありますので、必ず事前連絡をお願いいたします。

参加条件：平成年度ご卒業の目黒稲門会会員が中心ですが、もう少し年次が上の方や、ご家族ご友人も歓迎です。初参加の方、あるいは久しぶりすぎて顔を出しにくいという方、特に歓迎します。

担当幹事 石川 智子

***** よん月会 *****

本年1月より従来の「三土会」の名称を「よん月会」と改め、次の要領で開催しております。

日 時：毎月 第4月曜日 18時～20時

会 場：旨味家「あっぱれ」都立大学店

住 所：目黒区 平町1-27-3 都立日の丸ビル2F
（東横線 都立大学駅より徒歩2分）

電話：03-3717-4591

会 費：4,000円（食べ放題・飲み放題・語り放題）

30人以上収容の座敷（掘り炬燵式）が「貸切」です。食べて、飲んで、語って、談論風発の楽しい会です。是非皆さん奮ってご出席下さい。

◎ お願い

ご出席の連絡は、予約の都合上、開催日の2日前（土曜日）までをお願い致します。

03-3794-0396（不在時は留守電に申付け下さい。）

世話人 土川 俊雄

事務局よりお願い

☆ 心の芳名版にささやかな思い出を刻みませんか！

創立125周年記念事業募金に累計で8万円以上の寄付をしますと大隈講堂内の芳名版に名前が刻まれます。すでに寄付をされた方で、あと僅かでその金額に到達する方が多数おいでになるそうです。大隈講堂に名前を残し、自分の心の芳名版にもささやかな思い出を刻みませんか。

☆ 23区内ベスト10を維持しましょう！

目黒区の、地域別寄付申込み状況は達成率73.2%都区内で第10位です。

箱根駅伝ではありませんがシードギリギリです。ラストスパートを掛け11位を引き離してゴールインしたいものです。会員諸氏の奮起をご期待致します。

皆様のご寄稿をお待ちしています。

「部会参加感想」・「エッセイ」・「紀行文」・「珍しい話」
「耳よりな話」・「思い出話」・「体験談」・「好奇心を操る話」・「話題になる話」などなど何でも結構です。
どうぞ気軽にお寄せ下さい。
(但し、政治色・宗教色の強いもの、他人のプライバシー・人権に関わるものなどはご遠慮下さい。)

字数：○「会員の広場」500字～1000字 程度
○「特別寄稿」1500字～2000字 程度
様式：パソコンでeメール「添付」

又はプリント、手書き

何れも、横23字で行替え願います。

原稿締切日：07年7/6、10/5、08年1/11です。

送り先：表題に記載の事務局(吉田博行)宛

eメール：meguro_tomonkai@nifty.com 宛

部会案内一覧

詳細は本誌の各部会報告をご覧いただき、興味をお持ちの部会にお気軽にご連絡下さい。 平成19年5月現在

部会名	部会長 担当幹事	連絡先 電話/Fax	参加人数	当日会費 (年会費ナシ)	活動概要
囲 碁	保井 正		10 数名	500 円	毎月1回(下目黒住区センター)
カラオケ	海口昭治		15～20名	3,000 円 女性1,000 円	毎月 第二金曜 午後4～7時 (コートダジュール学芸大学店B1)
グルメ	海沼美智子		20～30名	6,000 円～ 10,000 円	年3回程度 リーズナブルな金額 と雰囲気・味の良い店を厳選
ゴルフ	大野利幸		20～30名	25,000 円程度	年2回 春秋 目黒通りバスで送迎 別途 秋に総長杯
ウォーキング	桑野祐光		15～20名	なし(各自負担)	シーズン中は毎月1回程度
麻雀	松尾洋一		10 数名	3,000 円	年4回 武蔵小山サン 他区稲門 会との連合親睦大会(年3回)
美術・歴史鑑賞	八幡和三郎		15～20名	その都度	年数回
旅 行	井村正陽		20～30名	その都度	年2回 春秋
目黒 若手会	石川智子		数名	5,000 円	年数回 土曜夜 若手・準若手
よん月会	土川俊雄		15～20名	4,000 円	毎月 第4月曜 午後6～8時 (「あっぱれ」都立大学店)
広報HP	中西千可子	eメール URL	meguro_tomonkai@nifty.com http://homepage3.nifty.com/me96tomon-waseda/		

編集後記

現在目黒稲門会では、会員に対する情報提供の媒体として、会報とインターネットを併用している。170名ほどの会員のうち、会報派とHP(ホームページ)派の割合はどんなものであろうか。

会報は、発行始めてもう8年になるが、HPは3年前に立ち上げたばかりであるから、情報伝達手段としては、会報の方が浸透している。そして入会勧誘も還暦年代の卒年に的を絞って会報を送っている。しかし、最近は様子が変わって来た。HPを見て入会を申し込んでくる方が増えて来たのだ。

年4回発行の会報は、記録性・可搬性に優れているが、速報性・情報量となるとHPには全く敵わない。入会する方の年齢が次第に若くなっているから何れ、主客転倒するのだろう。

今後、会報とHPの棲み分けをどう図っていくか。この解を求め、昨年から幹事会、編集委員会では、この問題を討議して来た。

会報は、読み物としての内容の充実を図り、HPは部会活動を軸にした会の動向にスタンスを置くことになろう。

従ってHPの今後の課題は、速やかな情報のリフレッシュと、素早い情報の発信である。

今回、会報とHPを一元化して、総合的に判断する司令塔と発信現場を統括する新しい組織「広報編集委員会」を設置することとなった。

そして、これを運営するには、もう少し若い世代の感性に委ねることが望ましいと思料するに至った。

.....

この会報を以って、編集長を次の世代に引き継ぐことと致しました。

これまで、多数の会員の方々からご投稿を頂き、紙面を賑わして下さった事を心から感謝致します。有難うございました。

今後の広報活動にご期待下さい。(外岡 記)